

ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



第12号
平成29年3月発行

清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部環境生活政策課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市藪田南2-1-1(県庁6階)
電話 058-272-8199



19 特定非営利活動法人 まめに暮らそまい会

事務局：〒509-8231 恵那市中野方町2339-13 理事長：井戸 茂利夫 会員数：正会員 53名・賛助会員 263名
(ふれあいセンターまめの木内)

今回も、前号(第11号)に引き続き「特定非営利活動法人 まめに暮らそまい会」をご紹介します。

前号で紹介した主な内容

平成9年に、地元の主婦たちが、「いずれ、親の介護が必要になったときのために」と、公民館講座で介護教室に参加したことがきっかけとなり福祉活動を開始。平成24年3月にNPO法人化、平成28年4月からは、地域福祉活動の拠点となる「ふれあいセンターまめの木」を管理運営している。「誰もが生涯安心して暮らせるまちづくり」を目指し活動している。

主な活動

外出支援事業

平成21年から中野方地域の移動困難な方への対応として「おきもり(当地域では農作業を互いに助け合うことをこう呼んでいた。)」による無償の移送サービスを実施。利用するには本人の同意書が必要となっており、通院や通所、買い物など地域内ならばどこへでも送迎している。運転手は地元住民や地元企業が協力し、無償ボランティアとして現在35名の方が登録している。



ドア・ツー・ドア送迎

育児支援事業

1. 学童クラブ

両親が働いている小学1年生から6年生までの児童を対象に、平日の放課後と夏休みに学童保育を実施(夏休みは1年生から4年生まで)。指導員と補助員が児童の指導に当たっている。



夏休みの学童保育で地域の方に竹鉄砲作りを教わる

2. 一時預かり

急な用事などで世話する人がいない時に、生後6か月の乳幼児から小学校4年生までの子を対象とした託児サービスを実施(1時間500円)。



ボランティアスタッフがお世話

高齢者支援事業

1. まめくらクラブ

今できることが歳を重ねてもできるように、介護予防を目的に、高齢者が1日楽しく過ごせる場所を提供。



やさしい笑顔で園児と交流

まめくらクラブへ参加することにより、昔話に花が咲き、友人、仲間ができ、ここへ来たら楽しいと思えるような癒しの場所になるようにしている。

2. 配食・ふれあい食事サービス

配食サービスグループ「ささゆり会」が担当しており、一人暮らしの方を対象に月に1回お弁当を作って届けている。また、1人で食べるより皆で食べたほうがいいとの思いから、「ふれあい食事会」を開催。お弁当の配達には当地域の民生委員が協力している。



ふれあい食事会でバイキングを楽しむ

主な活動

高齢者支援事業

3. まめくら学校

平成17年から認知症予防を目的に、脳のいきいき教室として開校。月に2回開校しており、子どもと高齢者との交流も取り入れている。また、毎年、修学旅行と称したバス旅行を実施している。



まめくら学校第14期生始業式

5. 独居の方の見守り・声かけ

福祉委員（ボランティア）と民生委員が月に、それぞれ2回ずつ計4回程度、独居の方を訪問して声かけを行い、安否確認を実施。また、町ぐるみで行う見守りの輪を広げようと「ネットワーク会議」を開催し、さりげない見守りにより、「誰もが生涯安心して暮らせるまちづくり」を目指している。



福祉委員が訪問して話し相手になる

7. お弁当宅配

独居の高齢者、70歳以上で昼間一人である方、70歳以上の高齢者世帯の方を対象に、地域のお店で作られたお弁当を自宅まで届けている。



宅配するお弁当

4. まめくら健康教室

介護予防を目的に地域包括支援センターの協力のもと、運動療法や音楽療法、回想法などを開催。



運動療法士による健康教室

6. 家事サポート

独居の高齢者や70歳以上の高齢者世帯を対象に、日常のちょっとした手伝い（家の周りの草取りや草刈、庭木の剪定、ゴミ出しや精米など）を行っている（利用料金は軽作業で、30分200円、重労働で、30分300円）。



ボランティアによる庭木の剪定作業

8. 講演会開催

福祉講演会を年に1回開催。日頃の生活を忘れ、大いに笑ってリフレッシュしてもらうために、近年は落語家を講師に招いている。



落語を満喫

ふれあいサロン事業

1. ふれあいサロン

地域の方がいつでも誰でも気軽に集える場所を提供。利用料金は無料となっている。コミュニケーションマージャン（通常よりも大きな牌を使用し、みんなで協力しながら行うゲーム）も取り入れている。



コミュニケーションマージャンで交流

2. ちくちくクラブ

雑貨などを手作りし、30代から80代の方まで世代を超えた交流を図っている。また、手作りした商品を販売し、収益の一部が当会の収入となっている。



手早く服が仕上がっていく

広報紙の発行

支え合いの意識と福祉活動の大切さについて理解を広めるため、広報紙とミニ通信を発行している。



広報紙とミニ通信発行

お菓子製造業

経営基盤強化のため、平成28年8月にお菓子製造業の認可を受け、製造販売を開始。



えな笠置山栗園の収穫祭で初めてお菓子を販売

今後の展望

住民が、この地域に住んでいてよかったと思えるように活動を継続していかねばならない。そのためには、経営基盤を強固なものにする必要がある。事業の安定が雇用の場をつくり、後継者となるスタッフの確保にもつながると思う。これからの事業にどう取り組んでいくか試行錯誤を重ねながらの事業展開をしている。地域の他団体と連携しながら、中野方地域のまちづくりを担う団体として、中野方地域の発展に寄与したい。